

令和6年度 事業報告

令和6年度事業報告	1
（1）本 部	2
点字出版部会	7
情報サービス部会	8
自立支援施設部会	12
生活施設部会	13
盲人用具部会	14
（2）盲人ホーム杉光園	15
（3）東京視覚障害者生活支援センター	17
（4）検定試験事業	22
（5）附属明細書	23

社会福祉法人
日本盲人社会福祉施設協議会

令和6年度 日盲社協事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会

《はじめに》

令和6年11月28、29日。令和元年、北海道・帯広での第67回全国盲人福祉施設大会以来の2日にわたる大会を開催することができました。新型コロナの呪縛から少しは解放された年であり、また、街の雰囲気も令和元年ごろとは、すっかり様変わりしているという中での開催は、九州としては福岡大会以来久しぶりであり、また、大分における開催は初めてのことでした。

テーマは「開拓と育成」。大分県で初めての歩行訓練士と名門高校野球部の監督に講演をお願いしました。何もない、あるいは萌芽はあるけど、その先になかなか進まない。後継者が育たない。周りを見渡しても、若い職員が少ない。今後、視覚障害福祉はどうなっていくのか不安だ。最近よく聞かれるようになった、現状や将来への危機の解消に、少しでも役に立たないだろうかとの思いが、そこには込められていました。

もちろんこうした思いの結実の有無を推し量ることは到底できませんが、次の年へとつないでいくことは出来たのではと考えています。ただ、だからと言って、視覚障害福祉を取り巻く状況は、決して好転したわけではありません。制度の充実や新たな技術開発の中で、住みやすさは増しているかもしれませんが、一方で、各部会の厚生労働省への要望はなかなか受け入れられません。視覚障害福祉の分野以外にも目を転じると、保険と税金という違いはあれ、介護保険における訪問介護事業者の窮状は、決して対岸の火事ではなく、また、障害福祉分野における生活介護も同様の状況に直面していることは、今年になって特に強調されてきたと思えます。

視覚障害福祉と言っても、実は範囲が非常に広いことは会員の皆様だれもが理解されていることです。施設や事業所運営の持つ課題の違いや、さらには問題意識の微妙なズレが生じることも致し方ないことだと思っています。ただ、視覚障害福祉という決して広くはないフィールドで、そこで活動している私たちが、どう繋がりをもって視覚障害当事者に対峙しているか、これは非常に重要なことです。その観点からは、令和6年度の活動は、私自身物足りなさを感じており、大きな反省点となっています。

連携を前面に押し出して進んではきましたが、令和6年度は、改めて連携を考え直す契機となる年度と捉え、今後に生かしたいと考えています。

《本部》

1 役員会等の開催

(1) 理事会 3回開催

第1回理事会

期日 令和6年5月28日 13:30～14:50

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続の各会場

議題 第1号議案 令和5年度事業報告(案)について
第2号議案 令和5年度収支決算報告(案)、財産目録について
第3号議案 社会福祉充実計画について
第4号議案 定時評議員会の招集について
第5号議案 新理事候補者の推薦について

報告事項 (1) 理事長及び業務執行理事の職務状況報告

(2) 東京視覚障害者生活支援センター建て替えに関する進捗状況報告

出席状況 理事8名、監事2名出席により成立 名誉会長も出席した。

第2回理事会

期日 令和6年10月31日 10:00～10:40

場所 リモート(Zoom)開催により、接続先の各会場

議題 第1号議案 アピール文案について

報告事項(1)第72回全国盲人福祉施設大会について

(2)厚生労働省陳情報告

(3)理事長及び業務執行理事の職務状況報告

出席状況 理事8名、監事2名出席により成立 名誉会長も出席した。

第3回理事会

期日 令和7年3月14日 13:00～14:55

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続の各会場

議題 第1号議案 令和6年度補正予算(案)について
第2号議案 令和7年度事業計画(案)について
第3号議案 令和7年度収支予算(案)について
第4号議案 3月評議員会の招集について
第5号議案 決議文案について
第6号議案 経理規程の一部変更について

報告事項(1)厚生労働省法人指導監査結果について

(2)理事長および業務執行理事の職務状況報告

出席状況 理事7名、監事1名出席により成立 名誉会長も出席した。

(2) 常務理事会 11 回開催

- 第1回 期日 令和6年4月10日
- 第2回 期日 令和6年5月8日
- 第3回 期日 令和6年7月3日
- 第4回 期日 令和6年8月7日
- 第5回 期日 令和6年9月4日
- 第6回 期日 令和6年10月3日
- 第7回 期日 令和6年11月15日
- 第8回 期日 令和6年12月11日
- 第9回 期日 令和7年1月22日
- 第10回 期日 令和7年2月12日
- 第11回 期日 令和7年3月12日

出席状況 いずれも理事長、常務理事2名が出席し、喫緊の諸問題を協議した。

(3) 評議員会 2回開催

定時評議員会

期日 令和6年6月18日 13:30~14:30

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続による各会場

- 議題 第1号議案 令和5年度事業報告(案)の承認について
第2号議案 令和5年度収支決算報告(案)の承認について
第3号議案 財産目録の承認について
第4号議案 社会福祉充実計画について
第5号議案 新理事の選任について

報告事項 (1) 東京視覚障害者生活支援センター建て替えに関する進捗状況報告

出席状況 評議員9名、監事2名出席により成立

議案説明理事3名、名誉会長も出席した。

3月評議員会

期日 令和7年3月28日 13:30~14:30

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
及びリモート(Zoom)接続による各会場

- 議題 第1号議案 令和6年度補正予算案承認について
第2号議案 令和7年度事業計画案承認について
第3号議案 令和7年度収支予算案承認について

報告事項 (1) 厚生労働省法人指導監査結果について

(2) 経理規程の一部変更について

出席状況 評議員 10 名、監事 1 名出席により成立
議案説明理事 2 名、名誉会長も出席した。

(4) 監事監査会

期日 令和 6 年 5 月 17 日 13:00～15:00

場所 東京視覚障害者生活支援センター 1 階 会議室

出席状況 監事 2 名、説明理事 3 名(理事長、常務理事 2 名)

内容 事業報告案に関しては、秋山寛監事が、収支決算報告案及び財産目録案に関しては、島田功監事がそれぞれ監査し、その結果、修正箇所を指導した上で、監事監査報告書に署名した。

2 委員会活動

(1) 第 24 回日盲社協社内検定試験実施のために、検定試験運営委員会を2回、試験実施委員会を7回開催した。

3 第 72 回全国盲人福祉施設大会の開催

日時 令和 6 年 11 月 28 日～29 日

会場 レンブラントホテル大分

主管 社会福祉法人大分県盲人協会大分県点字図書館

参加者 約 100 名

内容 開会式

研修会 テーマ『地方での視覚障がいリハビリテーション』

講師 社会福祉法人大分県盲人協会 歩行訓練士 神屋郁子 氏
事業部会

事業部会報告・交流会

講演 テーマ『高校野球と人材育成』

講師 学校法人別府大学明豊高等学校野球部監督 川崎絢平 氏

式典(ボランティア表彰・永年勤続職員表彰・援護功労者表彰、来賓祝辞、

アピール文案採択、決議報告、主管施設感謝状贈呈、次期大会開催主管施設挨拶)

4 第 24 回日盲社協社内検定試験(点字技能師)の実施

令和 6 年 11 月 17 日に、東京会場・京都会場・福岡会場・仙台会場の 4 ヶ所で実施した。

5 広報事業

「日盲社協通信」を、5 月と 12 月に発行した。Vol. 88、Vol. 89 とも、墨字版 300 部・点字版 210 部を作製し、会員施設及び関係団体・関係者・執筆者等へ配布した。また、ホームページにも PDF 版とテキスト版を掲載した。

6 福祉関係団体への参加と活動

日本盲人福祉委員会、日本障害者協議会、日本点字委員会、障害者放送協議会等各関係団体へ委員・協議員等が参加し協力活動をした。

7 点字普及活動（地域における公益的な取組）

点字の学習を希望している全国の受刑者へ、点字に関する資料一式を提供した。また、刑務所内では、点字器・点筆の所有が認められないため、法人独自で作成した『点字練習用紙』を提供して点字を打つ疑似体験を通して点字習得ができるよう、点字普及活動を行った。

8 その他の事業

（1）陳情活動

日時 令和6年5月21日

場所 厚生労働省

出席者 長岡雄一理事長、荒川明宏常務理事、吉川明常務理事

対応 厚生労働省（社会・援護局障害保健課、自立支援振興室、老健局高齢者支援課）

（2）褒章等表彰者の推薦

長岡雄一理事長が、令和6年度障害者自立更生等厚生労働大臣表彰社会参加促進功労者表彰者に吉川明常務理事を推薦し、受賞決定された。

（3）関係団体が開催する事業への後援及び協力

下記の通り、協力した。

団体名	イベント名	協力の種別
日本ライトハウス	令和6年度視覚障害リハビリテーション基礎講習会	後援
視覚障害リハビリテーション協会	第32回視覚障害者リハビリテーション研究発表会	後援
東京光の家	光バンドチャリティコンサート	後援
エル・システムジャパン	エル・システム子ども合唱祭 in 東京	後援
きょうされん	第47回全国大会 in しが	後援
全視情協	第49回全国視覚障害者情報提供施設大会(福岡大会)	後援
日本点字図書館	第21回本間一夫文化賞表彰式	後援
厚生労働省	令和6年度目の愛護デー	協賛
日本ロービジョン学会	第26回日本ロービジョン学会学術大会	後援
NPO サイトワールド	サイトワールド2024	共催
エル・システムジャパン	エル・システム子どもアンサンブル クリスマスコンサート	後援
日視連	「視覚障害者ガイドヘルパーの日」記念式典	後援
日視連	第78回視覚障害者福祉大会(千葉大会)	後援

9 会員施設の入退会状況に関する事項

(1) 入会 1 施設

- ・自立支援施設部会 一般社団法人セルフサポートマネージメント
居宅同行援護事業所 エスエスピー

(2) 退会 3 施設

- ・自立支援施設部会 盲人自立センター陽光園
- ・盲人用具部会 株式会社アメディア、株式会社エクシオテック

令和7年3月31日現在、会員施設数は、日盲社協直営の2施設(盲人ホーム杉光園・東京視覚障害者生活支援センター)を含めて、194施設。(各部会の内訳：点字出版部会 24施設、情報サービス部会 85施設、自立支援施設部会 50施設、生活施設部会 19施設、盲人用具部会 16施設)

《点字出版部会》

1 「点字図書出版速報」の発行（12回）

2 「点字出版図書のデータベース」のデータ維持

3 「点字出版図書総合目録点字版（令和6年度版）」全5巻の発行（30セット製作）

4 点字版自治体広報誌の発行の普及・拡大に向けた取り組み

今後の取り組みについて検討した

5 「選挙公報」点字版製作のための活動

令和6年9月13日、事務局会議

令和6年10月2日、衆議院選挙のための研修会を開催

6 点字普及の取り組み

6年度は審査すべき新たな事案、資料の持ち込みはなかった

7 『点字出版物製作基準』の製作について

コロナ禍のため、助成金の再申請も含めて活動中止

8 中間部会の開催

日時 令和6年8月23日

場所 日本視覚障害者団体連合

出席者 18施設・27名

議題 「令和6年度事業の懸案事項について」 ほか

9 事業部会の開催

日時 令和6年11月28日

場所 レンブラントホテル大分

出席者 9施設・12名

議題 「職員研修会について」 「副部会長選出」 ほか

10 職員研修会

日時 令和7年1月23日・24日

場所 京都ライトハウス

出席者 18施設・55名

テーマ 1 講演「点字の現代的意義と近未来の展望を考える一点字考案200年の年
を迎えて～日盲社協点字出版部会への提言」

- 2 講演「触図をめぐる課題と展望～点字教科書出版を通じて学んだ触図の技術と精神、心ふるえる図との出会いを求めて～」
- 3 講演 「点字製版機のからくり」 ほか

11 役員会の開催

部会運営のため、部会役員会を2回開催（オンライン）

12 その他

関係機関との調整・打ち合わせ等を行った

《情報サービス部会》

1 部会総会

通常部会総会（書面決議）

日時 6月14日提案、6月28日決議

- 議案
- 1 令和5年度事業報告案・決算報告書案
 - 2 令和6年度事業計画案・収支予算書案
 - 3 部会規約の改訂等について

2 運営委員会

第1回運営委員会・委員長合同会議（オンライン）

日時 5月30日

- 議案
- 1 令和5年度事業報告案・決算報告書案
 - 2 令和6年度事業計画案・収支予算書案
 - 3 部会規約の改訂等について

第2回運営委員会・委員長合同会議

日時 2月21日 13:30～17:00

場所 東京都「TKP品川カンファレンスセンター」

- 議案
- 1 令和7年度事業計画案・収支予算書案
 - 2 令和7年度決議文案について

部会監査会 4月13日

3 正副部会長会議

部会三役会 3回開催ほか随時メール協議

10月7日、11月21日、11月29日（オンライン及び大分）

全視情協三役との情報交換会 1月31日（オンライン）

4 点字指導員研修委員会

（1）委員会活動

点字指導員講習会・再認定試験開催準備並びに運営

委員会（オンライン及び岐阜アソシア、戸山サンライズ） 5回開催

6月21日、8月8日、12月4日、12月20日、1月31日

（2）講習会・認定試験の開催

点字指導員講習会

期日 9月19日（オンライン）

申込者 180名 受講者 178名

点字指導員資格再認定試験

期日 8月28日延期→12月3日

受験者 29名 合格者 18名

（3）日盲社協点字指導員研修委員会・全視情協合同会議 1回開催

12月10日（オンライン）

5 音訳指導員研修委員会

（1）委員会活動

認定試験開催準備並びに運営

全国視覚障害者情報提供施設協会録音委員会との合同プロジェクト会議
（オンライン）

7回開催 4月23日、6月14日、9月13日、11月8日、12月13日、
1月10日、2月28日

ブロック研修会 11月12日～13日（東北・新潟・北海道）

11月14日～15日（関東）

11月25日～26日（中部）

12月12日～13日（近畿）

12月5日～6日（中国・四国）

11月7日～8日（九州）

教材動画の使用対応 ブロック講習会（5ブロック）、1施設研修

(2) 認定試験の開催

第 17 回音訳指導員認定試験

期日 1 月 24 日

受験者 123 名 合格者 75 名

6 情報化対応支援者研修委員会（情報機器コース）

(1) 委員会活動

情報機器コース開催準備並びに運営

委員会（オンライン及び日本点字図書館、宮城県視覚障害者情報センター）

4 回開催 4 月 26 日、6 月 14 日、9 月 26 日、1 月 17 日

(2) 講習会の開催

情報化対応支援者研修会（第 15 回 情報機器コース）

期日 10 月 23 日～25 日（宮城県視覚障害者情報センター）

受講者 21 施設・団体 25 名

7 情報化対応支援者研修委員会（相談支援コース）

(1) 委員会活動

相談支援コース開催準備並びに運営 随時メール協議

(2) 講習会の開催

情報化対応支援者研修会（第 8 回相談支援コース）

基礎コース 期日 12 月 12 日～13 日（オンライン）

受講者 38 名

応用コース 期日 2 月 13 日～14 日（オンライン）

受講者 31 名

8 音声版選挙公報製作委員会

(1) 委員会活動

三媒体総務省訪問 9 月 11 日

事務局会議 1 回開催 12 月 26 日

委員会 1 回開催 1 月 28 日

マニュアル改訂委員会 5 回開催 8 月 1 日、8 月 21 日、9 月 11 日、2 月 4 日、
3 月 18 日

品質確認プロジェクト 1 回開催 2 月 5 日

研修会企画会議 4 回開催 4 月 12 日、4 月 30 日、5 月 23 日、3 月 21 日

(2) 研修会の開催

音声版選挙公報製作研修会 全施設向け研修

期日 5月17日（オンライン）13：00～15：30

参加者 54施設 112名

音声版選挙公報製作研修会 マスターデータ製作施設向け研修

期日 6月21日（日本点字図書館）12：00～16：30

参加者 23施設 34名

(3) 音声版選挙公報製作

第50回衆議院議員選挙

9 実態調査プロジェクト委員会

実態調査の実施

「日本の点字図書館 39」公表

委員会については、随時メールにて連絡調整

10 日盲社協第72回全国盲人福祉施設大会事業部会

1. 情報サービス部会の現状 各委員会報告

2. 災害への備え

3. 各施設・団体の取り組みと課題

(1) 見えない、見えにくい、見えなくなる人たちへの支援

(2) 点訳者・音訳者、アクセシブルな電子データ製作者等の人材の養成について

11 その他関係機関（部会推薦）

(1) 障害者放送協議会災害時情報保障委員会

総会 7月16日（オンライン）

(2) 障害者放送協議会放送・通信バリアフリー委員会

視聴覚障害者等向け放送に関する意見交換会 5月21日（民放連
地下ホール）

総会 7月16日（オンライン）

(3) 日本点字委員会

日本点字委員会総会および研究協議会 6月8日（オンライン）

(4) サピエ運営委員会

サピエ運営委員会 1月22日 13：30～15：30（オンライン）

《自立支援施設部会》

1 会員施設の現状について

自立支援施設部会の各施設の現状について、一部の情報共有にとどまり、全体を把握できていない。各施設の事業の現状と活性化方策、令和5年度障害福祉サービス報酬改定の影響、事業継続計画（BCP）の実施状況、地域における視覚障害者相談支援体制の現状、歩行訓練士の資格公認化の動きと地域における機能訓練事業のあり方、盲人ホームの現状と今後のあり方、盲導犬訓練施設の現状、専門職員人材確保の現状と職員のメンタルヘルス、地域における医療機関・他団体とのネットワーク構築などの観点・論点の整理にとどまった。職員研修会を中心に共有と議論を深めていく。

2 事業部会

日時 令和6年11月28日（第72回全国盲人福祉施設大会）

場所 大分県大分市（レンブラントホテル大分）

参加 11施設16名

内容 （1）各施設現状報告
（2）職員研修会の実施に向けて
（3）令和5年度決議文陳情結果及び令和6年度決議文案について
（4）意見交換

3 令和6年度決議文について

令和6年度決議文は、盲導犬育成費助成の要望、盲人ホーム事業運営補助金増額要望、同行援護サービス報酬単価増額要望の以下3点とした。いずれも昨年度に引き続いての決議文となったが、どれも外せない項目と考えている。決議文に関連する事業以外の、機能訓練、就労支援、相談支援等の各事業に関わる要望視点は、医療から福祉へとシームレスに繋ぐための日本版E C L O（エクロ）の導入やリンクワーカーの養成などの動き、本年秋に始まる「就労選択支援事業」の動向等をみながら、自立支援施設部会の各施設の現状を踏まえ、来年度以降の課題とする。

- 一 盲導犬（補助犬）育成について、年間2000回を超えるフォローアップ訓練に訓練費の助成が支給されるよう制度の見直しを要望します。なお、身体障害者補助犬法施行規則第1条（盲導犬の訓練基準）4で補充訓練、追加訓練その他の再訓練を継続的に行うことを定めています。
- 一 盲人ホーム事業の安定的運営のための助成金の増額を要望します。
- 一 同行援護事業のヘルパーが不足しており、適正なサービス利用計画が立てられず、視覚障害者の移動ニーズや情報取得ニーズに応えられていません。十分なヘルパーの確保ができるよう同行援護サービス報酬単価の増額を希望します。

4 盲導犬訓練施設年次報告について

自立支援施設部会盲導犬委員会は、令和6年度盲導犬訓練施設年次報告書を作成し、実働頭数768頭、育成数117頭と報告した。

《生活施設部会》

1 陳情活動

(1) 特別養護老人ホームの場合は3年に1回介護費の改定が実施されているが、盲養護老人ホームの場合も3年に1回措置費の改定が実施されるよう国や全国老協に陳情活動を行った。

(2) 視覚障害者を対象とする養護老人ホーム、救護施設、障害者支援施設、グループホーム等の入所施設が、Wi-Fi環境を整備する場合は、視覚障害者の情報保障を行う観点から、国に対して陳情活動を行った。

(3) 視覚障害者の施設入所者の同行援護の利用時間は在宅者並みに拡大するよう国に対して陳情活動を行った。

(4) 65歳を過ぎてから失明した視覚障害者も、グループホームに入所できるよう国に対して陳情活動を行った。

2 生活施設部会通信の発行

生活施設部会通信第4号を発行した。

《盲人用具部会》

本年度、用具部会においては、長らく実施が叶わなかった地方開催の展示会を、全国盲人福祉施設大会（主催：日本盲人社会福祉施設協議会）大分大会に併設する形で、久方ぶりに開催することができました。独立した展示会としての開催が実現できたのは、現地の大分県盲人福祉協会の皆様の多大なるご協力によって可能となったものであります。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

今後も、日本盲人社会福祉施設協議会ならびに日本視覚障害者団体連合が主催する全国大会において、地方開催の展示会を継続的に併設できるよう、その認知度を高め、「当たり前の取組み」として社会に根づかせていきたいと考えております。

1 盲人用具部会総会の開催

日時 令和6年4月16日

通常部会総会（対面：ラビット会議室、Zoom）

議案1 令和5年度事業報告案及び同決算報告案並びに監査報告

議案2 会計監査：エクシオテック退会に伴う改選決議

議案3 令和6年度事業計画案及び同予算案の決議

2 第1回盲人用具部会

日時 令和6年4月16日（対面：ラビット会議室、Zoom）

議案1 今年度の地方開催展示会のスケジュール、候補地の審議

議案2 熊本開催の予算審議

3 第2回盲人用具部会

日時 令和6年11月28日（対面：レンブラントホテル大分、Zoom）

議案1 盲人用具部会決議文の審議

議案2 大分開催展示会の開催準備の事前確認

4 第3回盲人用具部会

日時 令和7年2月13日（対面：ラビット会議室、Zoom）

議案1 次年度の地方開催展示会の候補地選定

令和6年度 盲人ホーム杉光園 事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

盲人ホーム「杉光園」は、都内在住の三療の国家資格を持つ視覚障害者に対して、地域生活支援事業として就労支援を行っている。ひとり一人の課題を把握し利用者と改善方法を確認しながら、一日も早く職業人としての「社会自立」ができるよう、それを目標に共に頑張っている。

1 利用者数の推移

年度開始時 8名

年度終了時 6名

入園者 1名

退園者 3名（内、就職：2名）

2 電子カルテの充実について

Excel でファイルの共有を用いて、カルテの入力を行っている。

日常的にカルテへの入力ができるようになっている。

3 患者獲得について

割引券の配布により、リピーターが増えている。

特に、土曜日の患者数が多くなっている。

4 来年度への課題

今後の課題として、患者の獲得人数に曜日のばらつきがあるため、これを平均化できるような工夫が必要と感じている。

令和6年度 盲人ホーム「杉光園」利用実績表

	登録利用者数	延利用者数	種 別						合 計		利用者負担金 (20%)	備 考
			マッサージ		はり							
					一科		二科					
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額					
4 月	8	53	66	225,900	0	0	0	10	46,700	76	272,600	
5 月	8	48	64	225,700	0	0	0	15	69,200	79	294,900	
6 月	8	57	64	217,300	2	9,000	22	102,400	88	328,700	65,740	6月末で、利用者2名退所
7 月	6	48	56	206,200	0	0	0	12	57,400	68	263,600	
8 月	6	47	47	164,500	0	0	0	13	58,500	60	223,000	
9 月	6	58	69	241,600	1	5,000	12	60,100	82	306,700	61,340	
10 月	6	67	71	235,800	0	0	0	15	71,400	86	307,200	
11 月	6	59	74	256,500	0	0	0	10	45,000	84	301,500	11月末で、利用者1名退所
12 月	5	46	72	270,300	0	0	0	15	67,500	87	337,800	
1 月	5	39	75	256,500	0	0	0	9	40,500	84	297,000	
2 月	6	47	59	216,000	0	0	0	15	68,500	74	284,500	2/12～利用者1名通所開始
3 月	6	54	66	254,300	1	5,000	27	124,900	94	384,200	76,840	
合計	76	623	783	2,770,600	4	19,000	175	812,100	962	3,601,700	720,340	

令和6年度 東京視覚障害者生活支援センター 事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1 はじめに

令和6年度は、一人でも多くの視覚障害者の利用を図り、視覚障害者のくらしと幸福の向上、職員の幸福の向上に貢献するよう、「信頼・連携・挑戦」をモットーに掲げ、創意工夫しながら事業をおこなってきた。

重点目標の達成度は、

- (1) 利用率の向上による事業収入の安定化については、目標とする平均利用率を下回った。
- (2) 職員の資質向上と関係機関との連携強化については、研修会への参加、関係機関との連携を積極的におこなった。
- (3) 建て替えの円滑な進捗については、大きな進捗はなかった。

2 利用者の状況について

令和6年度の利用者の状況については、新規契約者数は自立訓練（機能訓練、以下機能訓練とする）36人（前年度比4人減）、就労移行支援25人（前年度比3人増）、終了者数は機能訓練38人（前年度比1人増）、就労移行支援24人（前年度比3人減）であった。

延利用者数は機能訓練3,457人（前年度比839人減）、就労移行支援3,217人（前年度比521人増）、1日あたりの平均利用者数は、機能訓練14.3人（定員25人）、就労移行支援は13.3人（定員15人）であった。

センター全体としては、延利用者数は6,674人（前年度比318人減）で、機能訓練の利用者が大幅に減少したが、就労移行支援の利用者数が増加して利用率が堅調だったため、平均利用率は73%で前年度に比べ微増となった。

平均利用率が、当初予定を下回った要因として、

- (1) 機能訓練の新規契約者数、および利用者数が前年度より減少したこと
- (2) 機能訓練の新規契約者数が終了者数を下回ったこと
- (3) 機能訓練、就労移行支援とも利用者一人あたりの利用日数が週2日程度から増加しなかったこと

などが考えられる。

一方、終了者の状況は、機能訓練からの一般就労は4人、復職1人、就労移行支援からの一般就労は15人、復職2人であった。就職に関しては、令和6年度も一定の成果を上げていると考える。

3 機能訓練の状況について

令和6年度の年間利用率は57.5%に留まり、目標として掲げていた80%以上には達せず、また前年度の70.2%をも大幅に下回る結果となった。その要因は、大きく2つあると考える。

1つ目は、通所頻度が週2回以下の利用者が全体の63%に上ることである。常時通所日数の増加を呼びかけていたが、増加には結びつかなかった。

2つ目は、新規契約者数の減少である。来所による利用相談件数は72件で前年度より10件増加している。しかし、利用開始となった割合は43%で前年度より20%減少している。特に8月から12月までの5ヶ月間の契約者数が低調であったことが大きく影響した。利用率向上のためには、登録者数と通所日数の増加が重要であると考えられる。

一方、利用者満足度の向上を目指した取り組みについては、パソコンや iPhone 訓練の提供時間数を増加したことで、福祉サービス第三者評価において利用者から評価を得ている。教材の修正や補充を適宜行い教材学習を円滑に提供できるよう整える一方で、個別に対応する時間を一定期間ごとに設ける等、質・量・内容ともに利用者満足度が高いサービスの提供を目指し、一定程度それを実現できたと考えている。

4 就労移行支援の状況について

令和 6 年度については、年間を通して目標としていた利用率 80% を達成することができた。求人に関する情報提供を積極的に行うことで、新たに 15 人（事務系 5 人、マッサージ職 6 人、その他 4 人）が就職するに至った。また、2 人が復職を果たした。

一方、事務系職種については、今年度は思うように就労に結びつかないケースが多かった。理由としては応募書類や面接時に自己 PR や志望動機などが思うように伝えきれていないことも一因ではないかと考えている。

今年度は他機関との連携、情報共有の重要性を再認識した 1 年でもあった。1 つの事業所だけで対応できるサービスや支援には当然、限界もあるが、他の事業所と連携を必要とするケースが増えてきたように感じる。就労に対する意欲、健康面、相手が何を求めてどのように動けばよいのかなどパソコンスキル以外にも対応が必要なケースも増えてきた。

卒業生についても、パソコン操作に関する問い合わせだけでなく、入社後の不安や悩み、会社からの業務に関する問い合わせ等にも対応する機会が増えてきた。電話やメール、会社訪問等でできる限り対応していきたい。

利用申請に関する書類について、試験的に導入したパソコンで作成して申請する希望者も多く、互いにとって効率よく手続きができることが確認できた。

5 指定特定相談支援の状況について

令和 6 年度においても、機能訓練および就労移行支援の利用希望者、またその終了者を対象に、17 人（前年度比 1 人減）、53 件（前年度比 1 件減）のサービス等利用計画の作成やモニタリングを実施した。

サービス提供の終了や転居によって 2 人が利用を終了、4 人は就労移行支援利用終了時に契約の終了となった。そのうち 1 人は他のサービスを利用しているため、地元の相談支援事業所へ引継ぎを行った。

6 職員の資質向上と関係機関との連携強化について

（１）研修

職員の資質向上を目的として、虐待防止・身体拘束研修会、人権研修、就業支援基礎研修、社会福祉法人会計研修、経営管理研修、加齢に伴う心身機能の変化と認知症の基礎知識等の研修会に参加した。また、学会等については、視覚障害リハビリテーション協会主催の研究発表大会にポスター発表をおこない、ロービジョン学会の学術総会に参加した。

（２）外部連携

視覚障害者支援者懇談会、視覚障害者就労支援者連絡会、アイフェスティバル、IT 支援機関連絡会、新宿区相談支援事業所連絡会、全国ロービジョンセミナー、障害者技能競技大会（全国アビリンピック）等の視覚障害関係のイベントに職員を派遣して連携を図った。

また、バーチャルスポーツを用いた障害者のスポーツ実施促進事業、意思疎通支援従事者の確保事業への協力、視覚障害者向けサービスや機器等を検討している企業からの相談にも対応した。特に東京高等専門学校の実験室とは、訓練用プログラム作成について共同研究を始めるに至った。

(3) 講師派遣

視覚障害者生活支援員養成課程、高等学校、専門学校、視覚障害者支援者向け研修会、同行援護従業者養成研修、鉄道施設における視覚障害者の歩行訓練等から依頼を受け、講師を派遣した。

(4) 見学・見学実習

視覚特別支援校、視覚障害者の雇用を検討している企業、企業内マッサージ室（ヘルスキーパールーム）開設検討企業等からの見学に対応した。また、公認心理師養成の大学・大学院、医科大学からの見学実習を受け入れた。

令和7年度についても、職員の資質向上のために積極的に研修会等への参加や外部連携、視覚障害者とセンターの業務内容の理解のために講師派遣、見学の受け入れ等、積極的におこなっていききたい。

7 広報活動

登録者数、延利用者数を増やすためには、ホームページの利用と施設紹介見学会等の広報活動は重要である。

ホームページについては、リニューアルをおこなったが、更新頻度は低く、訴求力が不足していた。

施設紹介見学会については、東京都全域(島しょ部を除く)障害福祉課を対象とした見学会を1回実施し、9自治体10名が参加した。定員に達する申し込みがあり、センターの訓練内容や取り組みへの関心の高さが伺えた。

令和7年度は、利用希望者向けにはホームページの更新頻度を高めるとともに訴求力を向上させ、行政機関や医療機関向けには施設紹介見学会を対面とオンラインのハイブリッド形式で実施するなど、積極的な情報発信と広報活動を実施する必要があると考える。

8 参考資料

(1) 月別利用者数と利用率

(単位：人)								
月	開所日数 (日)	機能訓練（定員25名）			就労移行支援（定員15名）			センター 平均利用率
		延利用者数 (人)	1日平均 利用者数(人)	月別 利用率	延利用者数 (人)	1日平均 利用者数(人)	月別 利用率	
4月	21	344	16.4	65.5%	260	12.4	82.5%	74.0%
5月	21	287	13.7	54.7%	291	13.9	92.4%	73.5%
6月	20	301	15.1	60.2%	312	15.6	104.0%	82.1%
7月	22	319	14.5	58.0%	327	14.9	99.1%	78.5%
8月	21	254	12.1	48.4%	259	12.3	82.2%	65.3%
9月	19	260	13.7	54.7%	259	13.6	90.9%	72.8%
10月	22	306	13.9	55.6%	286	13.0	86.7%	71.2%
11月	20	266	13.3	53.2%	275	13.8	91.7%	72.4%
12月	19	257	13.5	54.1%	239	12.0	79.7%	66.9%
1月	18	268	14.9	59.6%	220	12.2	81.5%	70.5%
2月	18	279	15.5	62.0%	232	12.9	85.9%	74.0%
3月	20	316	15.8	63.2%	257	12.9	85.7%	74.4%
年間合計	241	3457	14.3	57.4%	3217	13.3	88.5%	73.0%

(2) 月別の登録者数・新規契約者数・終了者数

(単位：人)						
月	機能訓練（定員25名）			就労移行支援（定員15名）		
	登録者数	新規利用者数	終了者数	登録者数	新規利用者数	終了者数
4月	43	1	6	27	4	0
5月	42	4	1	31	4	0
6月	43	2	4	34	3	3
7月	43	4	3	32	1	1
8月	41	1	5	33	2	3
9月	42	1	3	34	1	3
10月	37	4	1	31	3	1
11月	38	1	3	33	2	3
12月	37	3	0	29	0	1
1月	41	4	4	30	1	0
2月	44	7	4	31	2	2
3月	44	4	4	31	2	7
年間合計	495	36	38	376	25	24

(3) 新規契約者の状況

	人数	平均年齢	性別		等級	居住地		
			男	女	1～2級	東京都区部	東京都市部	その他地域
機能訓練	36人	54.6歳	21人	15人	34人	25人	4人	7人
就労移行支援	25人	42.4歳	20人	5人	19人	14人	5人	6人

(4) 終了者の状況

	人数	平均年齢	性別		居住地			平均在籍 月数
			男	女	東京都区部	東京都市部	その他地域	
機能訓練	38人	56.6歳	20人	18人	30人	4人	4人	17.1ヶ月
就労移行支援	24人	41.9歳	18人	6人	14人	7人	3人	17.5ヶ月

(5) 就職状況

					(単位：人)
	終了者数	新規就職			復職
		一般事務	マッサージ関連	その他	
機能訓練	38	0	2	1	1
就労移行支援	24	5	6	4	2

令和6年度 検定試験事業報告(第24回日盲社協社内検定)

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

令和6年度社内検定試験は、東京・京都・福岡・仙台の4会場で令和6年11月17日に以下の通り開催した。

1 試験結果状況

試験実施日	令和6年11月17日		
試験会場	東京：戸山サンライズ 京都：京都テルサ 福岡：クローバープラザ 仙台：宮城県視覚障害者情報センター		
受験申込者	72名	1. 東京28名・京都25名・福岡9名・仙台10名 2. 点字使用者25名・墨字使用者47名	
受験者	72名	1. 東京28名・京都25名・福岡9名・仙台10名 2. 点字使用者25名 墨字使用者47名	
合格者	14名	東京6名・京都6名・福岡2名 点字使用者7名（内：盲ろう者1名）・墨字使用者7名 ① 学科試験・実技試験とも受験 49名のうち2名 （点字0名・墨字2名） ② 学科試験のみ受験 12名のうち6名（盲ろう者1名含） （点字3名・墨字3名） ③ 実技試験のみ受験 11名のうち6名 （点字4名・墨字2名）	
一部合格者	学科 11名（点字使用者6名・墨字使用者5名） 実技 4名（点字使用者2名・墨字使用者2名）		
合格率	19.4%		

2 事業実施状況

- (1) 運営委員会 2回開催（4月23日、12月19日）
- (2) 検定実施委員会 7回開催（5月21日、8月8日、8月20日、9月3日、
9月24日、10月23日、12月10日）
- (3) 募集要項配布 7月1日配布開始
- (4) 試験実施 11月17日
- (5) 試験結果発表 12月20日
- (6) 合格証書発送 令和7年1月24日

令和 6 年度 日盲社協事業報告附属明細書

令和 6 年度事業報告には、社会福祉法施行規則第二条の二十五第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しませんでした。